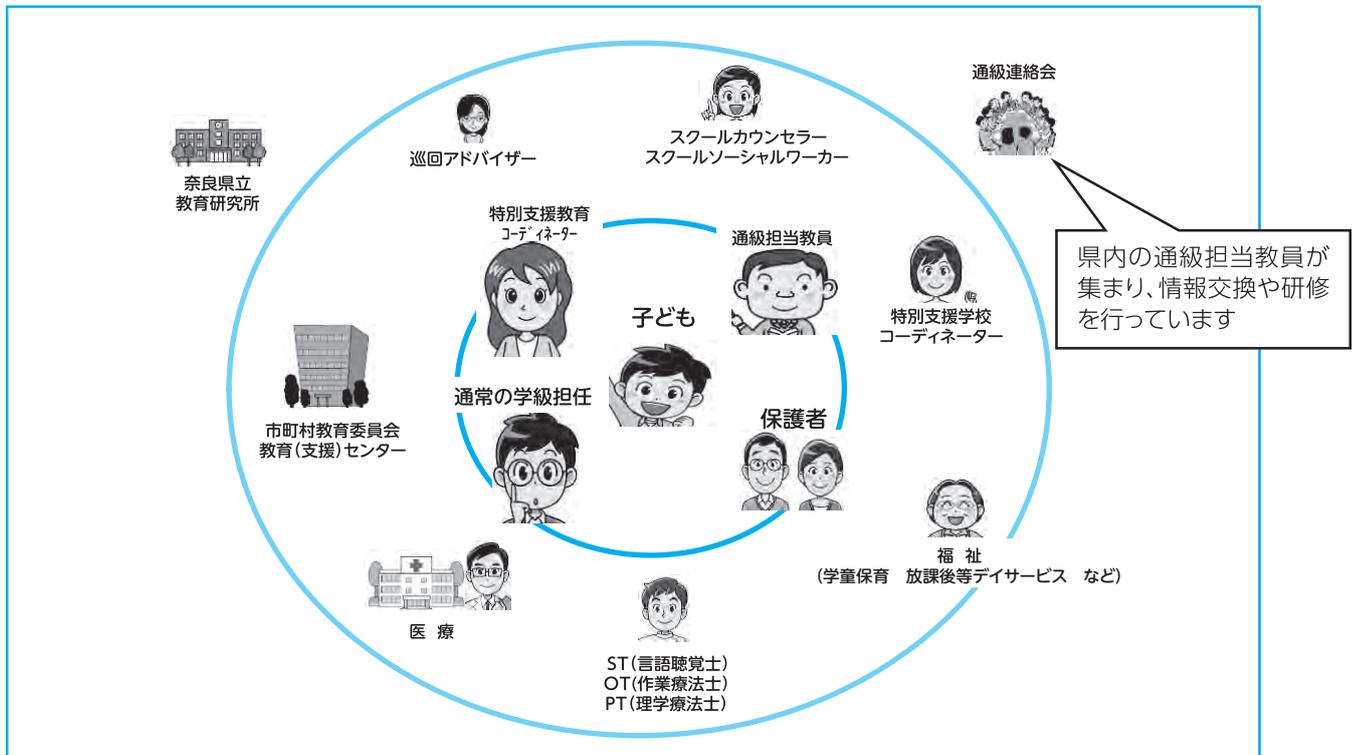


関係機関との連携

児童生徒に対して通級による指導を始めるときには、その必要性を校内委員会等で検討するとともに専門家チームや巡回相談を利用することも考えられます。また、個別の教育支援計画・個別の指導計画を基に指導することになるので、アセスメントやケース会議のときには関係機関との連携が必要になってきます。通級の種別、対象児童生徒の特性や状態によっても連携する機関は変わってきますが、市町村の教育委員会や教育(支援)センター、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの他、医療との連携も考えられます。



コラム⑮ 《関係機関との連携》

通級による指導では、通常の学級担任や保護者との連携はもちろんのこと、医療機関や市町村の教育委員会、福祉、教育研究所等と連携を図ることも重要です。

医療機関を受診する際に、通級で行ったアセスメントの結果を伝えたり、通常の学級や通級での子どもの様子や指導内容を伝えたりして情報を共有します。

また、ケースによりメンバーは異なりますが、通級担当教員・特別支援教育コーディネーターが主体となり、特別支援学校の教員・特別支援教育巡回アドバイザー・作業療法士等・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどと連携し、巡回相談やケース会議を行います。様々な機関と連携を図ることで、それぞれの立場から意見を出し合い必要な支援について考えることができ、子どもたちを多方面から支えていくことができます。



コラム⑯ 《通級の一年》

通級の一年間の流れをみてみましょう。4月には、教育課程や通級による指導の報告書を市町村の教育委員会に提出します。また、保護者への一斉説明会、担任連絡会も行います。5月から7月にかけて開かれる教育支援委員会(就学指導委員会)では通級による指導の報告を行います。担任連絡会は夏休みに行くこともあります。通級の保護者会を組織しているところでは、夏休みに日帰りキャンプを行ったり、通級担当教員と連携して宿題の支援を行ったりするところもあります。

2学期になると、次年度の通級指導の計画書を市町村の教育委員会に提出します。二期制のところは、前期同様、後期の手続きを行うことになります。

3学期には、市町村の教育委員会へ今年度の通級指導実施報告書の提出、指導要録の記載について通常の学級担任に連絡します。保護者との情報交換、情報共有の方法として、他校通級の場合は、指導日を利用して面談を行います。自校通級では保護者が引率しないため、年に3回程度の面談日を設けるか、連絡帳を活用することが有効でしょう。

1-4 通級を設置するに当たって(準備すること)

通級指導教室を設置するとき、市町村の教育委員会と設置校校長との連絡・連携が必要です。

市町村の教育委員会や設置校は、通級による指導の必要性や将来性などを検討した上で、十分連携を図りながら開設に向けて、意志決定を行うことが大切です。

市町村の教育委員会として留意すること

市町村の教育委員会において通級を設置する場合、「通級指導教室の設置要綱」等を作成し、通級担当教員がどのような職務を担当するのか、通級による指導の始まりや終わりの手続き及び提出書類等を決めておく必要があります。

どのように進めていくかは市町村の教育委員会の裁量によりますが、次のようなことが考えられます。

- (1) 市町村の教育委員会を対象とする児童生徒の実態調査を行う(県教育委員会と十分な連携を図る)
- (2) 開設に当たっての必要性や将来性について検討する
- (3) 市町村の教育委員会としての意思決定を行い、開設の諸準備を進める(就学相談及び指導内容に関して、施設・設備に関して、開設する学校の受け入れ準備に関して、初年度予算に関して等)
- (4) 開設までの諸準備を行う(必要な予算計上、対象とする児童生徒の実態把握の継続及び保護者との連携)

- 通級による指導の開始に当たっては、在籍校校長の権限において特別な教育課程を編成して始まります。
- 通級による指導終了の判断についても開始の時と同様に在籍校校長が行いますが、本人や保護者の願いを踏まえて、通級や市町村の教育委員会等と十分連携して行うことが望まれます。
- *通級設置の流れや、通級開始や終了の手続きについては市町村によって違うことがあります。
文部科学省編著『障害に応じた通級による指導の手引』なども参考にしてください。

設置校として配慮すること

新たに通級による指導が実施される場合、より効果的な指導を行うためには、以下の点に配慮する必要があります。

- (1) 校内の共通理解・教育支援体制づくり

通級による指導の概略とその役割、教育課程の位置付け、学校全体での教育支援体制や教育相談システムの構築など、全教職員が共通理解をすることが不可欠です。

- (2) 教室の場所

教室は、過敏さがある、人目を気にするなどの児童生徒に配慮し、落ち着いて学習に取り組める場所に設定する必要があります。また保護者が送迎する場合も考えて、出入り口の位置の工夫や特別の出入り口を設けることも大切です。

- (3) 担当者の職務等に関すること

個人情報取扱等への留意、通級担当教員の校務分掌や会議・行事の参加への配慮が必要となります。



コラム⑰ 《立ち上げについて》

市町村の教育委員会・校長先生と共に、“通級指導教室推進プラン”として3か年計画を立てました。学校の先生や特別支援教育コーディネーターへの啓発のための研修も段階を追って進めたことで、正しい理解につながったように思います。教室運営も長期目標と短期目標がはっきりしていたことで課題修正が明確になりました。その後も、市町村の教育委員会の指導主事の先生方やスクールカウンセラーの先生方との連携会議も企画してもらうことができました。一人でも悩まず、定期的に相談できる場があることで、安心して取組を進めることができました。

～実践編～



* 自作教材には「おたまのじさく」マークが付いています

事例に出てくる[教材・教具]『書籍』《アプリ》については「資料編：3-1教材・教具等一覧」に掲載しています



読み書き
計算

2-1-1

ひらがなが読めるようになったよ

授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

<p>実態:小学校 低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み書きが苦手である。 ・発音に誤りがある。 ・友だちや先生の名前を覚えるのが苦手である。 ・友だち関係は良好だが、登校を渋ることがある。 	<p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たり触ったりする体験的な活動を通して、読んだり書いたりできるひらがなを増やす。 ・タブレットPCを使った文字入力を経験する。
---	--

通級での指導・支援

読んだり書いたりできるひらがなを増やすために

- 文字学習の基本的な力を付ける。

- ・形を認識する学習:

- 点つなぎ、形づくり(図形キューブつみき)

- ・聞く力を付けるための学習:

- 『聞きとりワークシート』



図形キューブつみき



聞きとりワークシート

- 多感覚を使ってひらがな学習をする。

- ・ひらがな学習カードを使う。

- 文字にイメージをもたせるために絵と文字をマッチングさせて覚える。

- ・トランポリンを使う。

- トランポリンを跳びながら文字を読む。

- ・魚釣りゲームを使う。

- 答で指示された単語カードを釣り上げる。

- ・スイングブランコを使う。

- うつ伏せになってブランコに乗り、覚えた文字カードを取る。

- ブランコを揺らしながら文字カードを貼ったペットボトルをキックする。



ひらがな学習カード

タブレットPCを使った文字入力ができるように

- 文字の入力を経験する。

- 《ひらがなトレーニング》を使ってしりとりをする。

- 《筆談パッド》で文字を書く練習に取り組む。

- ひらがな入力の練習をする。

- 日記は出来事を話し、録画する。



ひらがなトレーニング



筆談パッド

通常の学級での指導・支援

- ・学生ボランティアが教科の学習時に読み書き支援をする。

- ・テストは休み時間に担任が読み上げて実施する。

- ・視覚支援が有効なので、大型テレビに教材を映し出し、説明する。

通級での変容

- * 読んだり書いたりできるようになったひらがなが増え、学習に前向きになった。
- * タブレット PC の取り扱いに慣れ、積極的に活用するようになった。

通常の学級での変容

- * 書きたい内容を口頭で伝え、自分から代筆が求められるようになった。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態：小学校 低学年 ・1年生初期に学習する「山・川」などの象形文字を元にした漢字は覚えられた。 ・漢字の訓読みはできるが、送り仮名を正しく書けない。また、訓読みで覚えてしまうと音読みが覚えられない。	長期目標 ・当該学年の漢字の読み書きができるようになる。 ・漢字に興味をもち、様々な場面で活用することができる。
---	---

通級での指導・支援 当該学年の漢字の読み書きができるように ○ 『意味から覚える漢字イラストカード』を使う。 ・学習 その1 イラストと漢字を同時に見て、漢字の読みを覚える。フラッシュカードのように次々と読みを答える。 ・学習 その2 イラストを隠し、漢字の読みを答える。 ○ タブレットPCアプリ 《常用漢字筆順辞典》を使う。 ・マス目の中にバランス良く文字を書くために、筆順を確認しながら形をなぞる。 タッチペンを使用し、鉛筆を操作するのと同じ感覚でなぞる練習をする。 ○ 漢字の形を体で表現する。 ・縦棒や横棒が全体のどのあたりに付くのか、自分の体の位置と照らして確認する。 ○ ワークシート(既習の漢字をカテゴリーごとに整理したシート)を使う。 ・覚えている漢字を「色の漢字」「体の部分の漢字」などにカテゴリー分けして整理する。	通常の学級での指導・支援 ・通級で使った教材プリントを学級で掲示し、毎日確認できるようにする。 ・本児が教材プリントを壁に掲示する際、カテゴリーごとに分けて貼れるように、掲示スペースを工夫する。
---	--



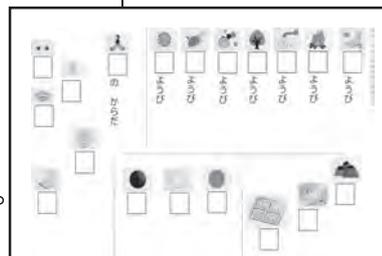
意味から覚える漢字イラストカード



常用漢字筆順辞典



新・筆順辞典



カテゴリーごとに整理したシート

通級での変容 * その漢字の中に隠れているカタカナや既習の漢字を見つけて、組み合わせて覚えようとするようになった。 * 送り仮名はどうなっているかを考えながら漢字を学習するようになった。 * 漢字には様々な読み方があることを理解し、他の読み方があることに興味をもつようになった。	通常の学級での変容 * 文章を書くときに、意欲的に漢字を使おうとしている。 * 掲示されている漢字を毎日見るようになった。 * 自分から繰り返し漢字の学習をするようになった。
---	---